



新湊ロータリークラブ週報

例会 毎週金曜日 12:30～13:30
会長 伊藤 雪枝 幹事 牛塚 松男



インスピレーションになろう

第 2261 回例会 2018 年 10 月 19 日(金)

「外部卓話」

- ◆点 鐘 伊藤 雪枝 会長
- ◆ソング 「奉仕の理想」
- ◆ゲスト MOA美術館
アートヘルスケアアドバイザー 麦島昂巳氏
- ◆在籍祝 北山(21年)・東海(5年)

出席報告<会員数:44名>

出席者	出席率	修正出席率
28 名	69.77%	93.18%

- ◆幹事報告 次回例会はグレン&千杯選抜野球大会参加の為簡易例会とします。(午前 11 時点鐘)
10/28 地区大会参加者確認
(理事会報告) ・北海道胆振東部地震義援金 44,000 円を
愛の基金より拠出
・井上会員退会承認



ニコニコBOX報告

- 伊藤会長 MOA 美術館麦島様卓話宜しくお願ひします。
- 北山・篠島 日本の宝とも言える光琳の「紅白梅図屏風」の解説を楽しみにしています。
- 酒井 結婚記念祝をいただいて
- 丸池 京セラドームの審判割が決まり 2試合担当します。
- 北山 在籍祝を頂いて。
- 織田 先週の例会を急用で欠席してすみません。10/19のフレンドシップお世話された方々ご苦労様でした。

ニコBOX 累計額 ￥355,000

卓話「国宝 紅白梅図屏風の見所について」

MOA美術館 アートヘルスケアアドバイザー 麦島昂巳氏
皆さんこんにちは、本日はお招きいただきましてありがとうございます。静岡県熱海市にあります MOA 美術館アートヘルスアドバイザーの麦島と申します。今日は私共が所蔵しております尾形光琳が描いた国宝



「紅白梅図屏風」の紹介を致します。基本的には国宝ですので、本物を持ち込むことは出来ません。本日はレプリカでご覧いただいております。レプリカといっても実物大で



これは写真でございます。同じように描くことは難しく写真のみでしか複製することはできませんでした。写真だからこそ寸分違わず同じようなものを楽しんでいただけているという事であります。黒い川と梅の木がご覧いただいていると思いますが、それ以外にも見えているものはございますでしょうか？後程その説明もさせていただきます。

私共は様々な美術品を所蔵しておりますが、優れた美術品は情操を高める効果があると考えております。美術館に来てもらう立場をずっと続けてきましたが、東日本大震災があったとき被災者を癒してあげたいという思いから出向くことは出来ないだろうかと考え、国宝の描かれたものというのは、60日間しか外に出すことは出来ないと法律上決まりがあり、レプリカを作ることによって喜んで頂こうと準備をしました。最近では小学校の情操教育として、各小学校の授業にも一部活用して頂いております。それを提供することで心を病んでおられる方、色んなことで悩んでおられる方に生きる希望を与えとか、癒されたといった声を頂いているところでございます。

紅白梅図屏風という事で、梅の季節はまだまだ先の事とお思いの方も居られるかと存じますが、熱海は日本一早咲きの梅という事で有名であります。今 10 月ですが 11 月ぐらいから実は梅が咲くんですね。これから秋を迎え冬を耐え忍ぶ日本人としての風情を感じて頂けたらとも思っております。

今日は演題にもありました、元禄の天才尾形光琳「紅白梅図屏風に込めた想いとは」ということとお話を進めたいと思っております。まず最初に光琳が生きた時代なんです。彼は 1658 年江戸時代に生まれております。今から約 300 年前ですが、彼は元禄の光琳とよく言われるのですが 9 回年号が変わっております。徳川將軍も家綱から 4 代変わっているんですね。光琳は華やかなものを残した画家なのですが、吉宗の質素儉約を旨とした將軍の時

代に亡くなるということで、光琳が築いた一時代の終わりを告げた1716年ごろになります。光琳の実家は元々尾形之春で足利義明に仕えた武士であったわけですが、その子どもの時代に「雁金屋」染色業呉服商を始めました。その奥さんは本阿弥光悦の姉であられました。光悦と光琳は親戚関係になります。光琳の家には光悦が残した多くの美術品があり、日常的に目にしていた子供時代を光琳は過ごしてきたんですね。光琳の父の時代には天皇のご后であります徳川政子さん、この方は美しい着物を好んでおられました。宮中で十二単を身に着けて過ごしていた中を小袖を取り入れられ、女性の私生活が非常に楽になった、そういった貢献をした方でございます。この政子さんは大変多くの着物を買い求めになられ、晩年では約半年の間に346点の着物を注文したとされております。ついたあだ名は衣装狂いという事で、その「雁金屋」は日本一の店となっていく訳であります。支払われた金額は現在に換算すると50億円を超えているといわれております。光琳は3人兄弟の二男坊であります。兄と光琳は父親から勘当されるほどの遊び人でありました。ただ日本一の呉服商ですから莫大な財産を受け取るわけです。京都には約7つの屋敷があったとされる実家でありました。その財産を3年から5年ほどですべて使い果たしてしまわれます。そういった中で先程の政子さまが亡くなってしまわれますと、顧客は政子さましかいなかった「雁金屋」は破綻しました。

絵の道に進んだ光琳はどんどん出世していききました。元々偉い僧侶に与えられた称号である法橋を44歳の時に与えられております。彼はそれ以降法橋という称号を多くの作品に示しております。光琳のもう一つ有名な作品に燕子花図屏風がございまして、型を用いて描く型起き技法、型抜き技法と呼ばれるものであります。その技法により300年の時が経っても当時のままのような色鮮やかな絵を楽しむことが出来るわけでありました。なぜこのような技法を使ったかという、呉服屋の技法を使ったのもあるのですが、光琳は金箔、金属の上に絵具を載せる技法を持っていなかったというのがあったわけです。

光琳は俵屋宗達の「風神雷神図屏風」に出会います。光琳は複写をするわけでありましたが、光琳独特の色合いでありますし、宗達のものより一回り大きい屏風を使っております。光琳が描いたものも重要文化財に指定されております。紅白梅図屏風はこの風神雷神図屏風の構図を基にして描かれております。梅の花弁は5枚あるわけですが光琳はそれを面にしています。そして普通は縁取りをするのですが、光琳は自分の目に入ったままの色を塗るという事で縁取りをしておりません。誑し込みを使い、水を多く含み滲ませながら描く技法を用い苔などを表現しております。中央の黒い川が主役のように描かれているところも面白いところです。紅梅と白梅の対比で動と静、上と下、男性と女性、老と若、柔と軟、金と銀などが表現されております。

宗達ははじめ当時の絵師の多くは法華宗の信者であり、法華宗には知恵昇格、努力をしている者の前には白い象に乗った普賢菩薩が現れますといった言い伝えがある訳であ

ります。この世は苦しい事辛いことがあるかもしれないが大自然の美しさや樂園というものを楽しめるように、多くの作品に残しておられます。

光琳が意図していたものというのは言葉としては残っていないので正確にはわからないわけですが、私たちは絵を通して光琳が伝えたかったことまた教えたかったことを色々と研究して、お伝えさせて頂いているところでございます。美の働きを感じて頂くと共に、美しいものというのは副交感神経を活発にし、傷ついた細胞を修復してくれる効果もあるとされております。美しいものを通して、健康にも役立つよう努めて参りますので、どうぞお役立て頂ければと思います。本日は有難うございました。

第2262回例会 2018年10月26日(金)

「グレン&千杯見送り簡易例会」

◆点 鐘 伊藤雪枝会長

グレン&千杯ロータリー選抜野球大会に参加

新湊 RC 野球部が大阪で開催の選抜野球大会に出場するため簡易例会(見送り例会)としました。

出席報告<会員数:44名>

出席者	出席率	修正出席率
30名	77.27%	88.64%

◇大会日時 10月26日～28日

◇大会会場 大阪舞洲スタジアム・八尾市立山本球場

結果報告

一回戦が東京調布むらさき RC に14-4で大勝!
二回戦は松山南 RC に5-1で敗退しました。

